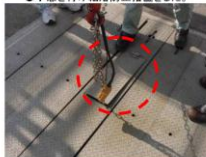


中小規模の上下水道職場でのヒヤリハット収集を活用したリスク管理 ～OSHMS 導入による参加型安全衛生活動の推進～			
ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	・OSHMS ・参加型安全衛生活動 ・ヒヤリハット収集	・リスクアセスメント ・自主的活動 ・リスク管理
1～8・12～16			
改善・取組みの背景と課題	<p>地方自治体の〇市では、部署ごとに10の安全衛生委員会を設置し、年度ごとに策定する安全衛生計画に沿って安全衛生活動を行ってきたが、労働災害発生件数が年間60件程度で推移し、安全衛生活動方法の全般的な見直しが必要であると考えられた。そこで、安全衛生委員会で調査審議した結果、OSHMSを導入することが決定され、外部の専門家の協力を得ながら、3年計画でOSHMS導入作業を進めた。</p> <p>第1ステップは、10の安全衛生委員会関係者を対象に、OSHMS概要(基礎)研修を1回、OSHMS導入研修を4回にわたって実施した。第2ステップでは、職場での自主的な安全衛生活動の定着を目指し、10の部署ごとにリスクアセスメント研修を実施した。第3ステップとして、部署ごとの安全衛生上の課題を把握し、その課題を改善するための目標を設定し、リスクアセスメントを継続した。第4ステップではOSHMSを運用し、各部署の課題の改善状況を確認しながら、安全衛生活動を進めている。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p>機械設備が多い上下水道職場では、以下の点に着目しながら活動を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① それぞれの職場のリスクに対応できる安全衛生対策ツールを、当事者が参加し、リスクアセスメントの考え方を取り入れながら、当事者自身の手で作成する。</li> <li>② 当面は、全職員を対象にヒヤリハット事例収集を定期的に行い、全ての事例についてリスクアセスメントを実施し、リスクやハザードの優先度に応じて改善活動を行う。</li> <li>③ コストがかかる機械設備の問題についても、低コストでできる改善策を労働者参加のもと検討する。</li> <li>④ OSHMS導入を活用し、自主的で継続的な安全衛生活動の定着を目指す。</li> <li>⑤ 職場のリスク評価や管理のみならず、自然環境や災害時等のライフラインの確保にも配慮する。</li> </ol>		
改善・取組みの概要	<p>研修ではすべて職場巡視を行い、その結果をもとに良好事例、改善事項についてグループ討議するなど参加型で実施した。また、部署ごとに、リスクアセスメントの考え方を取り入れた課題を設定し、それに沿って、活動が継続するよう一定期間で実施する目標を自分たちで設定してもらった。</p> <p>上下水道職場では、全職員168人を対象にヒヤリハット事例収集が行われ、92事例回収(回収率54.8%)し、「ヒヤリハット体験なし」を除く70例が収集された。また、全ての事例についてリスクアセスメントが実施され、リスクやハザードの大きさの優先度に応じて改善活動が継続的に行われた。さらに、改善作業後にはリスク再評価が行われ、リスクレベルがIになるまで、継続してリスク管理が行われている。</p> <p>次年度以降もヒヤリハット事例収集が継続され、新たなヒヤリハット事例についても同様にリスクアセスメントを実施し、改善活動とリスク管理が行われている。</p>		

## ヒヤリハット事例のリスクアセスメント・リスク再評価と、改善作業に伴うリスクレベルの変化

事例③及び⑤



項目	概要	リスクの評価			リスクレベル	リスク低減措置後			
		重大さ	可能性	合計		重大さ	可能性	合計	リスクレベル
事例③、⑤	砂揚げ作業でポンプの位置換えを行なう際、穴へ落ちる可能性がある。	7	5	35	IV	5	1	5	I

事例④



●落下防止の金具を設置した。



項目	概要	リスクの評価			リスクレベル	リスク低減措置後			
		重大さ	可能性	合計		重大さ	可能性	合計	リスクレベル
事例④	ステンレス製の蓋を取り外し清掃する際、蓋を落とす可能性がある。	5	5	25	III	5	1	5	I

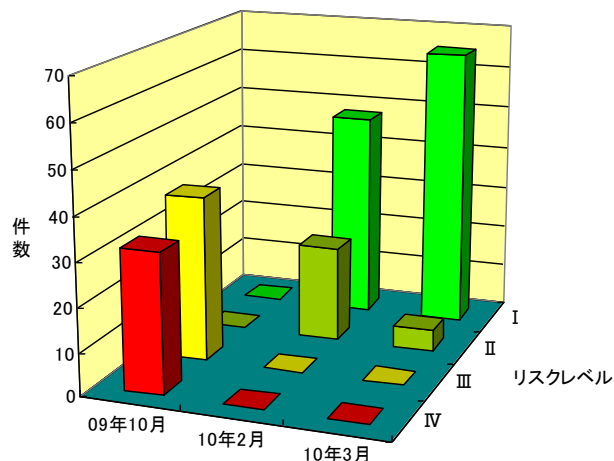


図1 改善作業に伴うリスクレベルの変化

写真・図表・イラスト

効果

上下水道職場では、機械設備が多く、リスクが特定されても、改善に巨額な費用が必要になることが多く、リスクやハザードが放置される傾向も見受けられ、以前からリスクアセスメントの実施が必要不可欠であった。OSHMSの導入作業を契機に、全職員を対象としたヒヤリハット事例収集が定期的に行われるとともに、リスク評価と管理が徹底された。そして、ヒヤリハット事例の提出とリスクアセスメント結果に基づく改善活動などの一連の作業は、労働者自身の手によって、リスクアセスメントという当事者にとっては新たな手法を用い、労働者参加型で行われた。

これらの作業を通して災害発生件数は減少(4件→3件→4件→2件→0件)し、2011年12月19日現在で、ゼロ災751日となった。

このGPSの経験から学ぶことができるポイント

ヒヤリハット事例を収集することで、事業所全体あるいは個別のリスクやハザードの把握が可能となった。また、それらをリスクアセスメントすることで、優先順位をつけて対策を進めることができた。

上下水道職場では、機械設備が多く、改善に巨額の費用を必要とするものが多かったが、労働者参加型でリスクアセスメントを行うことで、低コスト改善策も数多く提案された。さらに、ヒヤリハット事例収集を定期的に行うとともに、リスク管理を行うことで、長期に渡りゼロ災を継続することができた。

参考資料

1) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原 邦夫, 堤 明純, 山口秀樹, 丸山正治: 自治体職場への OSHMS 導入—導入途上の状況と今後の展望—, 労働安全衛生研究, 3(1), 11-16, 2010.

投稿者

丸山正治・渡辺裕晃

e-mail

2011年12月20日